

教育の大切さを説く「米百俵」の精神を受け継ぐ、新潟県の長岡市立表町小学校は27日、校庭で育てた「コシヒカリ」の稲刈りを行った。5年生22人が、手刈りとはさ掛けに汗を流し、食の大切さや収穫の喜びを感じていた。

児童は、総合学習の一環として田

「米百俵」精神継ぎ 学校田のコシ収穫

新潟県長岡市立表町小

植えを経験し、水稻の管理と観察を続けてきた。目標収量30キロを掲げた。栽培は、米を中心に食育活動する特定非営利活動法人（NPO法人）プロジェクト88が協力した。

今年の作柄は良好で豊作が期待できる。大森将護さん（11）は「鎌の使い方も慣れて楽しい。早く食べてみたい」と笑顔を見せた。

今後は試食やイベントを計画す

校庭内の学校田かかしと一緒に豊作を喜ぶ児童



る。西本直史教頭は「米作りを通じ、食を生産する苦勞と喜び、食を大切にする気持ちを育ててほしい。さらには流通や販売についても学習を深めてもらいたい」と述べた。

今年で3年目になる取り組みで、校庭に歴史ある田んぼ100平方メートルを復活させた。